

# 聞いてなるほど!

# いきいきライフ

## メタボとロコモを知らう!

全5回シリーズ 最終回・下

### ここまで来た 脊椎脊髄疾患の治療

—難治性疾患から脊髄の再生まで—

主催 公益財団法人 SBS静岡健康増進センター、静岡新聞社・静岡放送

後援 静岡県、(社)静岡県医師会、(社)静岡県歯科医師会、(公社)静岡県薬剤師会、静岡市

公益財団法人SBS健康増進センター公開講座「聞いてなるほど! いきいきライフ」の2015年度シリーズ(全5回)の第5回がこのほど、静岡市葵区のしずぎんホール「ユーフォニア」で行われた。講師の浜松医科大学整形外科教授松山幸弘さんの講演内容を紹介する。  
(企画・制作/静岡新聞社事業部)

公益財団法人 SBS 静岡健康増進センター  
〒422-8033 静岡市駿河区登呂 3-1-1  
☎ 054 (282) 1109  
URL <http://sbs-smc.or.jp>



# 生きる力を支える医療



浜松医科大学 整形外科教授

## 松山 幸弘さん

まつやま・ゆきひろ

1987年広島大学医学部卒。愛知県半田市立半田病院研修医、91年厚生連渥美病院、92年名古屋大学附属病院整形外科、95年米ネオタスバインセンター留学、96年名大附属病院整形外科医員、2001年同大医学部整形外科教室医局長、同大附属病院整形外科講師、06年同大大学院医学系研究科機能構築医学専攻助教授、07年同准教授を経て、09年より現職。

### 手術で治療可能に

私は30年近く、脊椎脊髄疾患、つまり背骨の病気を専門にやってきました。変形した背骨の痛みと短い人生を終えた少女、肋骨が150度も曲がって呼吸不全で亡くなった男性など治療の難しい患者さんを多く診てきましたが、現在は医療が格段に向上し、かなりの症状が治療可能になってきました。その現状を紹介いたします。

最も有効な背骨の手術は大きく進歩しましたが、同時に非常に厄介で、正常な神経を切ってしまう部分だけ取り出すようなことも繊細で高度な技術が求められます。全国3000例の背骨の手術のうち50例強に麻痺(まひ)が出たという報告もあり、まず後遺症の数を減らす対策を第一に徹底しています。それは手術中、患者さんの手足が動くかを確認することです。

患者さんの脳に電流を流すと、神経を伝って手足が動くので、それを心電図のような波形で確認します。波形が7割落ちたら、手を止めて原因を探ることで麻痺が避けられます。また、エコーを使い、手術部位の神経の状態も見ながら手術を進めます。エコーやCT(コンピュータ断層撮影)の解像度は向上し、膜に包まれた神経や血管も、より鮮明に映し出されます。

さらに、浜松医大には全国でもわずかしかないう手術用ナビゲーションシステムがあり、どこに神経があるのか、どこを切るといいのか手術状況をリアルタイムで確認できるシステムもあり、精度の高い手術ができます。

髄内腫瘍という、脊髄を通る中枢神経の中の腫瘍を切除する場合、神経を切らなくてははいけません。神経を切ると言っても、神経はカスタードクリーム状とても軟らかく、ゆで卵の白身を切って黄身だけ取り出すようなイメージです。神経の周囲の血管の太さはわずか直径1ミリの手術では顕微鏡で拡大して慎重に行います。

骨をいったんバラバラにして、人体に安全なチタン製のネジで再構築する手術も行っています。かつて、首を引っ張るなど体を器械でけん引するような痛みを伴う治療で、しかもそれほど効果が期待できなかったものが、医療技術の進歩により背骨の変形

を治し、歩行できなかった人が歩けるようになるなど、その成果は大きく様変わりしました。

### iPS細胞に期待

脊椎脊髄疾患の治療で最大の課題は、脊髄損傷の再生です。転落事故や交通事故で脊髄が傷つくと、手足が動かなくなり、現在、この脊髄を再生させる治療法が進んでいます。

注目されているのが、京都大の山中伸弥教授が発見したiPS細胞です。この万能細胞はどんな細胞にも分化でき、脊髄の細胞も同様です。実際にマウス実験では、障害を受けた神経が見事に再生しました。ただ、まれに腫瘍化の恐れもあり、実用化にはもう少し時間がかかると思いますが、10年以内には完成すると思っています。

### 気持ちも前向きに

男女ともに、いつまでもきれいでありたいと思うことは不思議ではありません。こうした治療で病気や体形が治ると、患者さんには予想以上の好影響が生まれます。

背中がゆがんで痛くて歩けない、また呼吸も困難だった患者さんたちが、真っすぐに背中に戻ると、身長が10センチほど伸びる患者さんがいます。

最後に教授の手術映像が始まり、一言でいえば「美しい!」。血管・神経温存し骨削り、全て大成功。終わってみれば、背骨真っすぐ丹田姿勢。素晴らしい! ウサイン・ポルト君よ、Dr松山の手術を受けなさい。側彎(そくわん)治せばオリンピック3連勝にホールインワン、師匠もONOchanも丹田姿勢でハイ、ジャジャジャン。

また、全国で患者数50万人はいる椎間板ヘルニアも近い将来、手術せずに治療できるでしょう。椎間板の中の糖を分解させる酵素を患部に注射して、ヘルニアを溶かす方法が研究されています。

医療は大きく進歩し、良い薬も出て、背骨の変形は治せるようになりましたが、一方で、痛みだけは100%とすることは難しいだろうと思います。どうしたらいいのか。まず、患者さん自身もネガティブに考えず、前向きに明るく物事を考えるようにしてください。そして何より、私たち医師が患者さんとしてしっかりコミュニケーションを持ち、患者さんの気持ちに寄り添うことが最も大事で、それにより痛みは半減するだろうと考えます。

人生に100%完璧なことはありません。100%を望むのではなく、「何とかなるさ」と気楽に構えること、そして生きることが熱意を持ち続けることが医療の効果を高め、またそういう患者さんを応援する医療でありたいと考えています。

## 遠山所長の健康セミナー



2年連続松山教授の講演は脊椎・脊髄疾患治療でした。当日、私は何年ぶりかで胸腰椎前屈老女の乳母車押しを見て驚きました。以前見たのはいつだったか?

今の70~80歳の女性の体力は最高と言われていいます。戦後の苦勞を乗り越え、元気で楽しく過ごしたいという思いが強い方たちです。そして、元気の源は1に運動、2に食事の意味を知り、各地域の運動施設を活用して体力増に役立っています。ロコモ対策には運動+カルシウム+タンパク質が常識であり、肉は体に良くないという妄想を持つ人は減りました。教授持参のビデオ「脊柱縮み左右への揺れ歩き」「下向きのチョコチョコ歩き」に「危ない」と声が出ましたが、術後は皆立ち直っています。日本人に一番多い病気が「腰痛」です。原因は悪姿勢と運動不足。教授の話にもありましたが「臍下丹田に力を籠めるべし。さすれば頭頸背腰股膝足と上から下まで一直線」で腰痛なし。

最後に教授の手術映像が始まり、一言でいえば「美しい!」。血管・神経温存し骨削り、全て大成功。終わってみれば、背骨真っすぐ丹田姿勢。素晴らしい! ウサイン・ポルト君よ、Dr松山の手術を受けなさい。側彎(そくわん)治せばオリンピック3連勝にホールインワン、師匠もONOchanも丹田姿勢でハイ、ジャジャジャン。

遠山 和成 1941年生まれ。県立静岡高、京都大学医学部卒。静岡県立総合病院の外科医長、副院長を歴任し、2006年よりSBS静岡健康増進センター所長。